『付喪神記絵巻』

立春を前に家々ではどこでもすす払いを行い、多くの古い道具や器物を捨ててしまう。捨てられた器物たちが集まって、人間たちの薄情を恨み、妖物と化し仇を報じようと話し合った。数珠の入道一連は反対するが、手棒の荒太郎に打ちすえられる。陰陽の不安定な節分の日、器物たちは妖物に変じ、京都中を暴れまわり人間たちに復讐を果たす。妖物横行の話聞いた天皇は早速祈禱を命じ、護法童子が遣わされ、妖物たちはことごとく制圧される。その後、妖物たちは改心し、山寺に隠棲していた入道一連を師として出家した。各々別れて深山幽谷に入り、精進の末に成仏した。書名の「付喪神記」の「つくも」は「九十九髪」の略で、老女の白髪の意味。その連想から古い器物が妖変したものを「つくも神」と呼んだ。

「付喪神記」は岐阜県崇福寺に室町時代製作の絵巻物が蔵せられているが、江戸時代にその模写絵巻は多く作られ、本絵巻もその一つである。奥書には「円融房 無相 / 尾州妙行寺」とある。

[参考文献]

成蹊大学図書館所蔵稀書解説目録：成蹊大学図書館，2006.9 026/Se17 2013300481

たま藻のまへ；たまも；はちかづき；七くさ；付喪神 / 京都大学文学部国語学国文学研究室編：臨川書店，2001.3 913.4/35/10 2001101392

室町物語集 / 中野幸一編：早稲田大学出版部，1991.3 913.4/21/2 0091100912

妖怪 / 岡本綺堂[ほか]著(付喪神 / 須永朝彦訳)：国書刊行会，1999.5 908/43/18 0099102111